

vol. 2309

【発行】大分県高等学校教職員組合教宣部 大分市大字下郡496-38 大分県教育会館
TEL / (097) 556-2838 FAX / (097) 556-8998 MAIL / ohtwu@view.ocn.ne.jp

大分県高教組情報

【発行者】大野 真二 【印刷】(株)佐伯コミュニケーションズ 【売 価】30円(組合員の購読料は組合費の中に入れて徴収しています)



今号の掲載内容 (掲載順)

- 大分中部支部2023年度支部教研「LGBTQについての学習会」
- 育児休業復帰支援「カムバックセミナー」
- 日教組平和集会 還流報告

大分中部支部2023年度支部教研 「LGBTQについての学習会」

と き 10月8日(日) ところ 教育会館 研修所

布施順子さんを講師にお迎えして開催しました。参加者は4分会から、合計7名でした。ワークショップ形式の学習会だったため、参加者の意見を交流させながら進めることができ、一人ひとりがじっくり考えられる貴重な場となりました。また、うち1名は未組織の方の参加もあり、高教組の雰囲気を感じてもらえる場にもなりました。以下は、参加者の感想です。

《感想》

- 改めて親として子どもとどう向き合うか再確認できました。教室で、「先生は女と女はどうか」と言われたときに、「本人たちが決めること、周りがいろいろ言わない」と言ったことを思い出した。
- 自分自身の持っている価値観の狭さに気づくことが度々あります。本日の布施先生のお話を聞いて、そういった狭い(誤った)価値観(偏見)を自分自身が持っているかもしれないと理解した上で、行動していきたいと感じました。併せて、自分と異なる価値観や偏見に寛容な態度で理解していこうとする姿勢を持ちたいと思いました。
- 知識として学ぶことが重要なのではなく、「自らのことを考える」ことが人権意識を育てることなのかなと思いました。迷っても揺らいでいてもいいのだという認められ方にほっとできた時間でした。教員として、間違いないようにというのが先立つことも多いですが、「ことばに捉われ過ぎずに」という布施さんのことばを胸に、自分でたくさんの方に触れ、どんどんもやもやしたり気づきを増やしたりしていきたいです。明後日から「～さん呼び」をしていきたいと思います。
- 複数の他校の先生方と久しぶりに意見交換ができて新鮮な思いがした。学校には様々な困りを抱えている子がたくさんいるので、今回の話を踏まえていろいろな支えになっていければと思う。問題を意識しないことが学校の安全性を脅かす可能性があることを考えておきたい。
- とても素晴らしい学習会でした。来てよかったです。一人一人が誰かに寄り添うことも大切ですが、国の法整備がより一層進むことを強く望みたいと感じた、布施先生のお話でした。
- いつも思うことですが、人権の問題って、LGBTQも含めてですが、答えはないものだなと思いました。今私が思っていることも揺れているなと思います。目の前の生徒にまっすぐに自分が思っていることを伝えて、また、子どもたちと一緒に考えていけたらいいなと思っています。まずは今日の話を学年部の先生にシェアすることから始めます。
- LGBTQについての知識を知ることは「知らずに他人を傷つけてしまわないため」と考えていたが、それだけではまさに

「他人事ととらえている」に過ぎない。生徒や仲間と一緒に考え、一緒に迷い、悩みむこと、様々な価値観や考え方を理解しようとし、行動に移すことを続けていきたいと感じた。

育児休業復帰支援「カムバックセミナー」

と き：10月15日(日) ところ：教育会館

今年度の「カムバックセミナー」(教職員共済・県教組共済)には、高教組からは育休中の組合員1人とその配偶者、女性部から1人が参加しました。

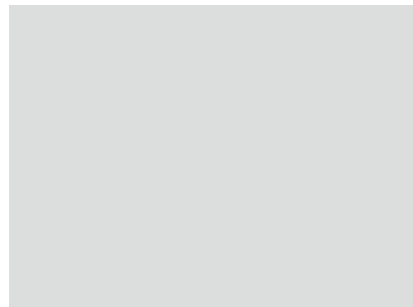
セミナーⅠでは、「子育て世代のライフプランセミナー」として、教職員共済より、保険や補償についての講座がありました。今後の生活設計について考える良い機会となりました。



セミナーⅡでは、「復帰してからのワークライフバランス」について考えるため、育児に関する休暇や制度について学習を深めました。これまで交渉の結果、様々な

休暇制度などの育児等に関する権利を獲得してきました。復帰にむけて育休者が確認したい制度の内容や職場のサポート体制について確認することは、安心して育休を取得することに繋がります。

高教組は、育休中の組合員を含め、これから出産・育休を迎える方へのサポート、また男性の育休取得の推進等、今後も子育て世代をバックアップしていきます。



日教組平和集会 還流報告

と き：10月21日(土) 22日(日)
ところ：岩国市

「2023年度 日教組平和集会」に参加しました。1日目全体会では、現在95歳で元中学校音楽教員の江種祐司さんの「人類史上最大の犯罪－ヒロシマ・ナガサキ原爆投下－」の特別講演がZOOMでありました。当時17歳の江種さんは広島師範学校の学生で倉庫で被爆されたそうです。当時の様子を写真と当時の地図で説明もあり、「広島土地や海には黒い雨が今でもしみこんでいる」「原爆投下を許してはいけない」の言葉が印象に残りました。報告は「ウクライナの現状」と「高校生平和大使活動報告」がありました。その後、4つの分科会に分かれ、私は第3分科会「戦後補償や国際連帯へのとりくみ」に参加しました。レポートは①「ウクライナに使い捨てカイロを送るとりくみ」(山形県教組)②「滋賀朝鮮初級学校との連帯のとりくみ」(滋賀県教組)③「追悼記念碑に込められた平和への願い」(長崎被爆二世教職員の会)の3本で、レポート発表をもとに議論をすすめました。2日目はフィールドワークとしてピースリンク田村順玄さんの講演「岩国基地について」と岩国基地周辺を視察しました。田村さんの講演は岩国基地の歴史から日常の基地までわかりやすかったです。あと、岩国基地はあまりに市民の身近な所に基地があるのに驚きました。改めて平和のために自分たちが何ができるか、戦争を繰り返してはいけないと痛感し、平和について考える良い機会でした。(竹田分会 伊勢嶋美香)